

神奈川県立金沢文庫の基本方針

金沢文庫は、鎌倉時代の中頃、北条氏の一族（金沢北条氏）の北条実時（1224～76）が、武蔵国久良岐郡六浦荘金沢（現在の横浜市金沢区）の邸宅内に造った最古の武家文庫といわれています。実時にはじまる歴代の金沢北条氏は、和漢の貴重な典籍を蒐集してこの文庫に収め、一大コレクションを形成しました。

現在の神奈川県立金沢文庫は、この金沢文庫に起源をもつ博物館で、昭和5年（1930）に神奈川県施設として復興されました。そして歴史博物館として、鎌倉時代を中心とした中世の諸相を今日に伝える、多数の国宝をはじめとした貴重な文化財を後世に伝えるとともに、その調査・研究の成果を展示や講座を通じて公開し、また県民の生涯学習の一拠点としての役割を果たすべく活動を行っています。

神奈川県立金沢文庫では、こうした活動を推進していくため、次に掲げる姿を目指していきます。

金沢文庫・称名寺ゆかりの国宝をはじめとする文化財や、豊かな歴史を伝える地域の文化財を後世に伝えていくために、適切な環境のもと、資料の保存・修理・活用・収集を十分に行っていくことを目指します。

良好な研究環境のもと、当文庫に求められる調査研究を十分行うことができおり、その成果を円滑に公開していくことを目指します。

鎌倉文化の宝庫である国宝を抱えた歴史博物館としての、また豊かな歴史を伝える地域の資料館としての金沢文庫の魅力を多くの方に知っていただき、ご来館いただくため、利用者のニーズや時代にあった情報発信や金沢文庫のブランド力をさらに高める発信を行い、良好な施設設備のもと、利用者の知的好奇心を満たす展覧会や講座の開催、データベースの公開等を行っていくことを目指します。

地域や学校との連携が活発であり、適切な施設運営のもと、地域に根ざした県民の生涯学習の一拠点としての役割を十分担っており、地域に愛される施設となることを目指します。